

改訂の序

本書は、2011年に、薬剤師が人間の命を預かる職業であることを自覚し、それにふさわしい姿勢、態度、行動を身につけていくために欠かせない教育として位置づけられているヒューマニズム教育をアクティブラーニングで学ぶ教科書として発刊された。その後も、多くの薬学部で使い続けていただいていると伺っている。また、医学教育においても、本書を参考にアクティブラーニングを取り入れた教科書づくりが行われたという嬉しいニュースも耳にした。

2015年から導入された薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂版では、本書がカバーする領域は「A:基本事項」と名目を変え、医療人としての薬剤師養成を目指しさらなる充実が図られた。本書の改訂においても、(1)薬剤師の使命「薬剤師が果たすべき役割」、「患者安全と薬害の防止」、「薬学の歴史と未来」の項に、新たに4つのSBOs(到達目標)を追加した。いずれも魅力的な内容となっている。

医療の担い手としての倫理観や人を思い敬う態度、人間関係を良好に育むコミュニケーション力などを養うには、アクティブラーニングの導入が不可欠である。学生同士の討議に加え、さまざまな場面を想定したシミュレーション学習、模擬患者や模擬医療者を相手にしたロールプレイなどを導入することで、参加し体験することを通して学生はさまざまな気づきを得ることができる。そして、適切なタイミングでの指摘や洞察を促す質問などで気づきは更に深まり態度として醸成されていく。人はそれぞれ異なった考え方を持っているという当たり前のことに改めて気づいたり、仲間の発表や振る舞い、人への気遣い方を目の当たりにすることで、自分の中に対応力という引き出しを増やしていくことができる。

こうした気づきのチャンスを少しでも多くするには、興味を喚起する、学習課程に即した課題やシナリオが不可欠となる。魅力的な授業を組み立て一定の成果を上げるには、実は準備に大変な手間暇がかかるものである。本書を用いることで、少しでも画一的な教育から脱し、学ぶ皆さんが主体的に楽しく取り組み、さまざまな気づきが得られることを心から願うものである。

2019年10月

日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会常任理事
東京理科大学薬学部薬学科健康心理学研究室教授
後藤恵子